
調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2008年 10月 28日

北海道立函館水産試験場 (0138-57-5998)

○2008年10月7日～15日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。

調査結果速報は、下記の函館水試ホームページからご覧になれます。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

- 計量魚探による魚群反応量は、前年同期の5割。
- 魚群は沖合域に多かった。
- 夜間の魚群の分布深度はおよそ150～450mで、分布の中心は300～400mに見られた。
- すけとうだら延縄漁場周辺の水温は、前年より低く、おとしより高かった。

● 魚群反応量(図1)

計量魚探による調査海域(檜山)全体の魚群反応量は、前年同期を5割下回りました。また、主漁場となる沿岸域の反応量は前年同期を6割下回りました。

● 魚群の分布

・ 水平分布(図1)

スケトウダラは、主に奥尻島の東側、松前小島堆、奥尻堆などの沖合域に分布が見られ、主漁場となる沿岸域では少なくなっていました。

・ 鉛直分布(図2, 3)

魚群の分布は、①(42° 02. 5N線)では深度150～450m、②(41° 55. 0N線)では深度150～450m、③(41° 50. 0N線)では深度250～450m、④(41° 40. 0N線)では深度250～450mに見られました。分布の中心は、概ね深度300～400mに見られました。

● 水温環境(図4)

すけとうだら延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国沖で水温の観測を行いました。3地点ともに、今年の水温は前年(2007年)より低く、おとし(2006年)よりも高くなっていました。特に、深度50～200mで水温差が大きくなっていました。

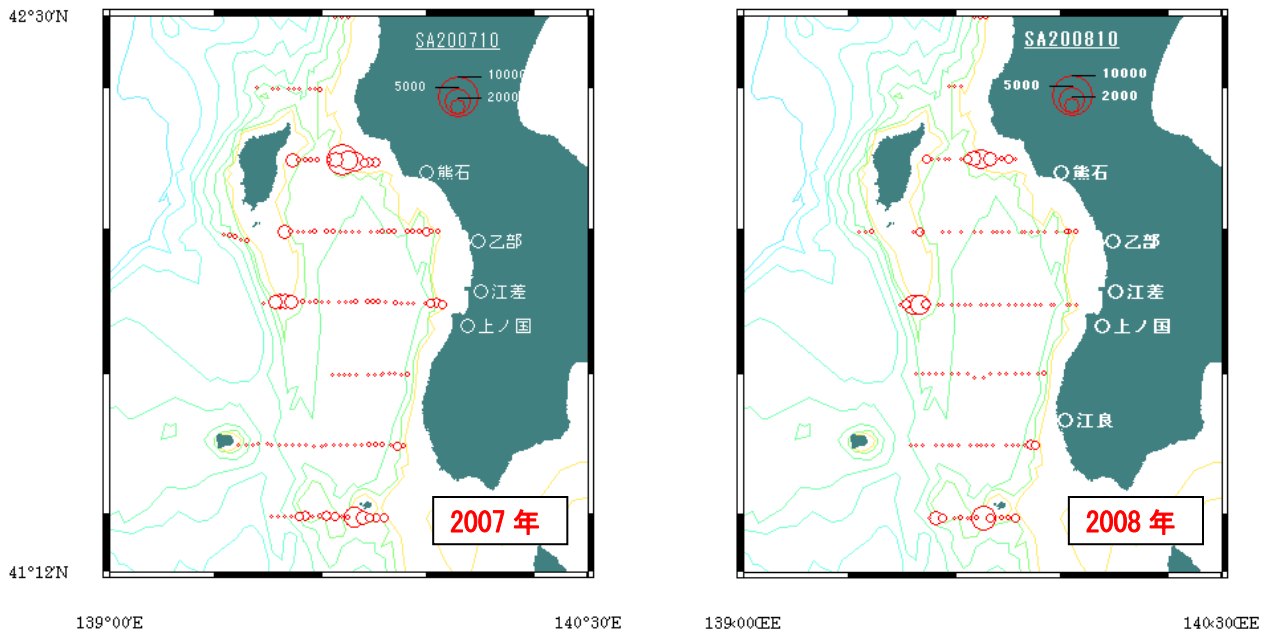


図1 魚群の水平分布 (左: 2007年10月, 右: 2008年10月)
 ○の大きさが魚群反応量 (S_A) を示す

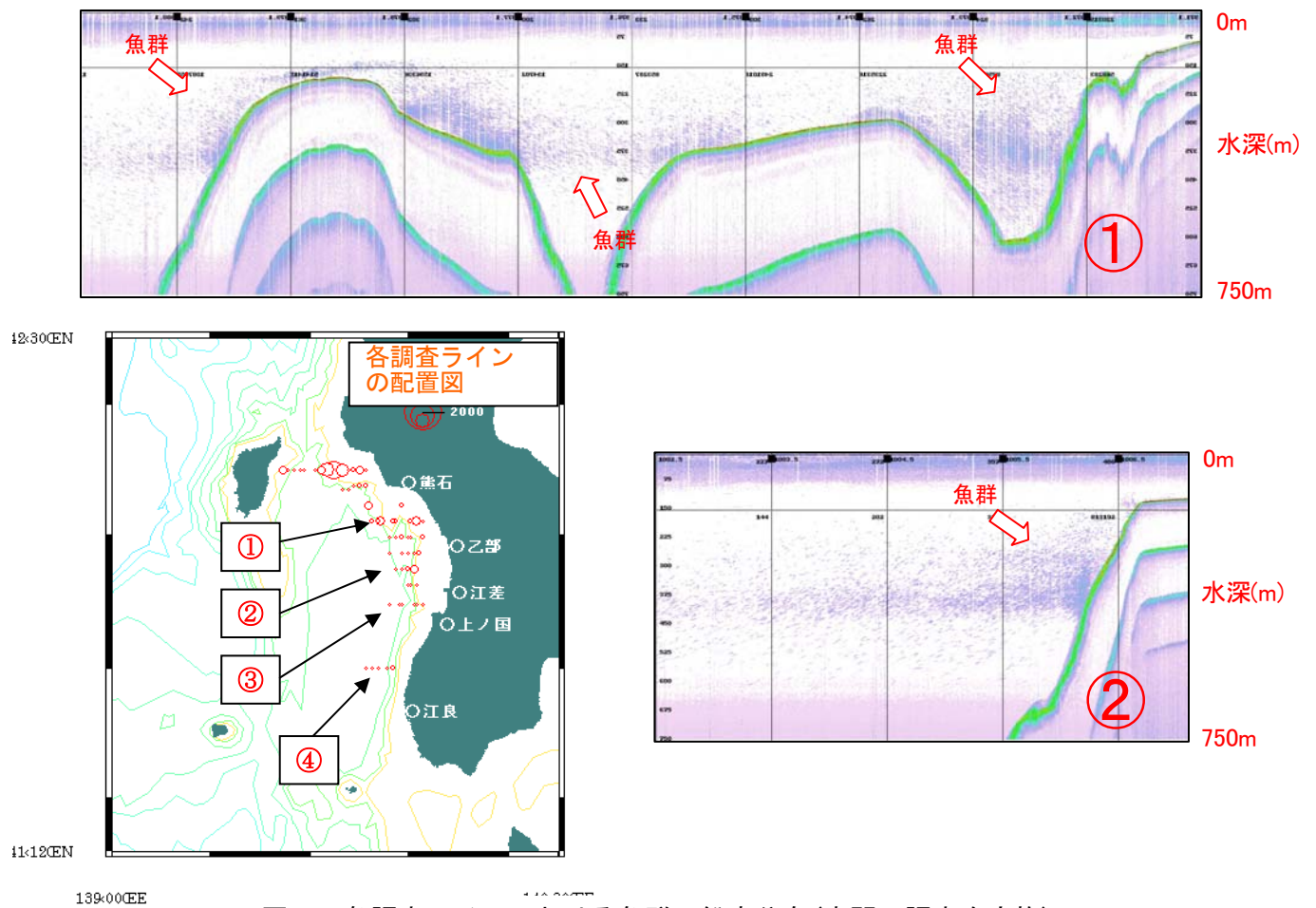


図2 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布 (夜間に調査を実施)

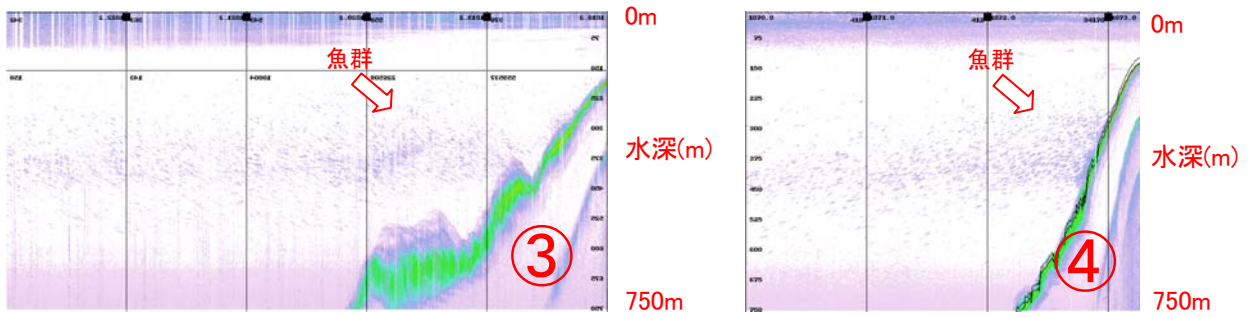


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に実施)
調査ラインの位置は図2を参照

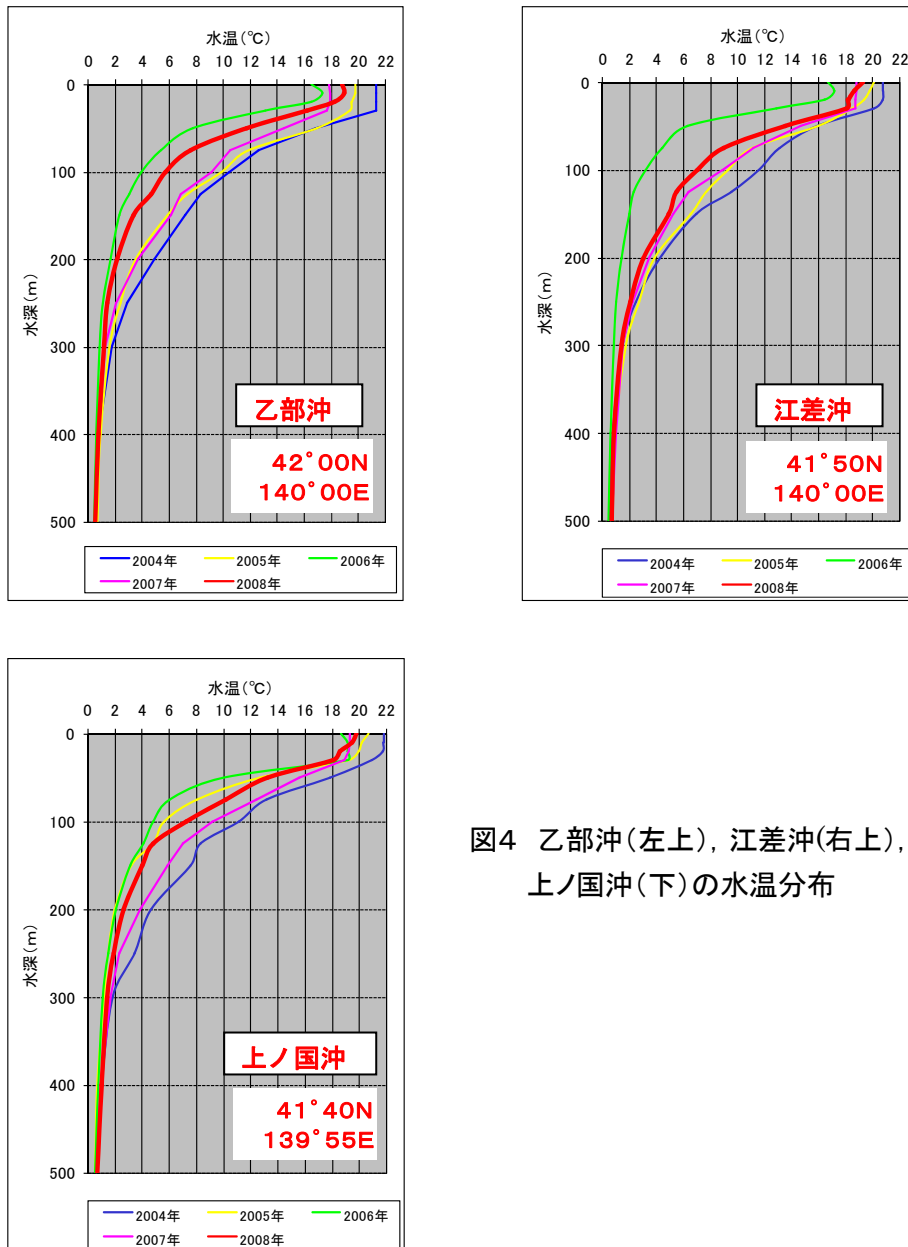


図4 乙部沖(左上), 江差沖(右上),
上ノ国沖(下)の水温分布